

入札監視委員会の審議概要について

平成29年度第1回中国運輸局入札監視委員会が開催されましたので、審議概要を以下のとおりお知らせいたします。

開催日及び場所	平成29年9月25日 中国運輸局 会議室	
委員	水中 誠三 (水中綜合法律事務所 弁護士) 木谷 直俊 (広島修道大学 名誉教授) 三井 正信 (広島大学大学院 教授)	
審議対象期間	前回報告分以降 ~ 平成29年6月末	
抽出案件	総件数 55 件	(備考)
一般競争	16 件	
通常指名競争	0 件	
随意契約	39 件	
委員からの意見・質問、それに対する回答等	意見・質問	回答
	別紙のとおり	別紙のとおり
委員会による意見の具申又は勧告の内容	特になし	

質問	回答
<p>【オープンカウンター】 前回委員会での指摘事項への対応について。</p>	<p>「オープンカウンター」がなじみのない言葉なので、わかりやすい日本語を付記してはということであるが、HPに「オープンカウンター方式による見積依頼について」ということで説明をつけた。現在はこのような形で対処している。また、現在のHPでは、すでに契約が終わった案件だととられやすい状態なので、HPのレイアウト変更を検討している。</p>
<p>【岡山運輸支局旧庁舎解体工事監理業務】 監理業務について、落札率が低いのはなぜか。</p>	<p>監理業務については、積算の要素はマンパワーのみということとなる。落札事業者は現場に近いことから、予定価格に比べて入札価格が低くなったと思われる。</p>
<p>【岡山運輸支局旧庁舎解体工事】 解体工事の落札率が低いのはなぜか。</p>	<p>入札参加者が多く、競争が働いたなかで、落札事業者は工法等を工夫し、経費を圧縮した結果であると考えられる。</p>
<p>【岡山運輸支局旧庁舎解体工事】 13者と多くの応札があったようだが、PRIはどのようにしたのか。</p>	<p>公示期間を1カ月とった。今回は解体工事であり、比較的特殊な技術を要しないことや、年度末を避けたことで、多くの業者にとって入りやすかったものと思われる。</p>
<p>【荷物運送契約】 荷物運送契約が一者応札だが他に参加者はいないのか。</p>	<p>人手不足等により引き受けそのものが難しいようである。他社にも毎年声をかけているが、運輸局は国の機関の中でも規模が小さいので敬遠されている可能性もある。</p>
<p>【PPC用紙】 PPC用紙は共同調達になって費用が下がったということだが、他の案件についても共同調達で費用が下がるということはないのか。</p>	<p>PPC用紙は他官署と仕様に違いが少なく参加しやすかった案件である。他官署と仕様があわないと参加しづらいが、参加できればスケールメリットにより費用が下がる可能性があるのでいろいろ検討しているところ。</p>
<p>【企画競争】 以前と比べると一者応札が減った印象を受けるが、それでもまだいくつかあるがなぜか。</p>	<p>他の運輸局でも多くの企画案件を行っているため、事業者の対応能力の関係もあると思われる。公示の時期を早めることは一者応札の解消に一定の効果があったと考えている。</p>
<p>【企画競争】 観光関係の企画競争案件が増えているが、全国的に見て、中国地方の訪日客の伸び率はどうか。</p>	<p>訪日客の全国平均よりも上昇率が高く、ゴールデンルートから地方に向かう訪日客の流れを受け増加している。</p>

(参考)

入札監視委員会は、入札及び契約の過程並びに契約の内容の透明性を確保するために、平成13年4月1日から施行された「公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律」（平成12年11月27日法律127号）及び「公共工事の入札及び契約の適正化を図るための措置に関する指針」（平成13年3月9日閣議決定）に基づき、中国運輸局に設置されています。

平成29年度 中国運輸局入札監視委員会名簿

(構成:3名)

委員会役職	氏 名	職 業
委員長	水中 誠三	弁護士
委員	木谷 直俊	広島修道大学 名誉教授
委員	三井 正信	広島大学大学院 教授